

阿蘇神社

国際的な名声を誇る神社

阿蘇神社は紀元前 281 年に創建されたと考えられています。現在、阿蘇神社は二社から成ります：カルデラ底に広がる阿蘇市にある下宮（the lower shrine）と、阿蘇山の山頂、噴火口からほんの百数十メートル下方に位置する上宮（the upper shrine）です。上宮の正式名称は、文字通り「阿蘇山の上の神社」という意味の「阿蘇山上神社」です。どちらの神社も阿蘇山火口を御神体としています。

下宮には 1830 年代から 40 年代にかけて建てられた保存状態良好な建物が多数あり、そのうちのいくつかは重要文化財に指定されています。上宮はその少し後、19 世紀の終わり頃に建立されました。現在の上宮は 1958 年建造のコンクリート造りの簡素な一棟の建物です。

火山信仰の目的は、火山の神々をなだめることでした。神々が満足していれば火山には何も起こりません；しかし、もし神々が不機嫌であれば火山は噴火します。たとえ小規模であっても、火山の噴火は農作物や家畜、人間の住居に深刻な被害をもたらす可能性がありました。

阿蘇山の火山信仰についての最初の記述は、中国・隋王朝の正史『隋書』（636 年成立）に見られます。また、阿蘇山が神聖とみなされるようになった経緯は 8、9 世紀に書かれた日本の文献にも登場します。

天皇が住まう都・京都から遠く離れたこの地方の神社がこんなに大きな注目を集めたのは、阿蘇の火山の挙動が日本全体の運命を予兆するとされていたためでした。阿蘇神社の神職たちは、火口底の水の状態を綿密に監視し、そのいかなる変化も朝廷に報告しました。その変化が凶兆と解釈された場合、朝廷は阿蘇山の噴火と国全体の災いを防ぐために、全国の神社に熱心に祈祷するよう命じました。